



基本理念

病む人に寄り添い、安全かつ最適な医療を提供します



九州医療センターの基本理念

基本理念は2018年10月に職員全員の意見を集約して決定されました。「病む人に寄り添う」とは、常に患者さんに接して苦痛や希望を知り、患者さんの権利を第一に、ご家族や重要な関係者の思いにも耳を傾けて温かい医療を実践する姿勢を表しています。「安全」な医療とは、検査および治療成績とともに当院での成績をもとに十分な説明を行い、患者さんの理解と同意を得て、可能な限り不利益を最小限化して提供する医療です。また「最適な」医療とは、病院の総合力を生かして、いくつもの選択肢の中から患者さんの自己決定権のもとで選ばれた医療を、患者さんと医療者が協議して実践する医療です。

職員は時代の変化と患者さんのニーズに柔軟に対応できるよう日々研鑽し、医療連携を推進し、病院の健全な経営にも積極的に参画し、一丸となって基本理念および運営方針を推進します。

INDEX

- 1 巻頭言 岩崎浩己
- 2 就任・新任の挨拶 .. 中島、甲斐、西山、井上、辛島、吉川
国府島、成田、岩崎、春田、筒井、藤瀬、松尾
- 3 さわやかナースング 中村千夏子
- 4 医療最前線 加来豊馬
- 5 ヒポクラテスのカフェ 吉住秀之/九州とこところ
- 6 地域医療連携だより わかばハートクリニック 武居 講
- 7 食事改善プロジェクト始動 春田典子
- 8 高精度放射線治療装置：Halcyon導入 大賀才路

九州医療センターの SDGs

院長 岩崎 浩己



2015年9月に開催された国連サミットにおいて、加盟193カ国の全会一致で採択された提言「Transforming Our World（我々の世界を変革する）」には国連の強い決意が示されました。そのなかで、2030年までに世界を持続可能でより良いものにするための開発目標としてSDGs

（Sustainable Development Goals）が記載されています。17のゴールと169のターゲットで構成されるSDGsの取り組みのなかで、国立病院機構の一員である九州医療センターが特に意識して取り組む必要のある点について考えてみたいと思います。

3

すべての人に健康と福祉を



第3項に掲げられた「すべての人に健康と福祉を」というゴールは、私たち国立病院機構が担うべき医療に直結します。民間ではアプローチ困難なセーフティネット系医療分野（筋ジストロフィー、重症心身障害、結核、心神喪失者等医療観察法に基づく医療など）や新興感染症を含む災害医療を守り続けることはもちろんですが、当院のように高度急性期医療と救急医療を提供することで地域の人びとの健康を支える続けることも国立病院機構の大切な使命です。質の高い急性期医療を実践するためには、設備投資と人材確保が不可欠です。例えば外科医にとって、ロボット手術を実施できる環境が整っていることが病院選びの大きな要素となっています。患者さんにとっても低侵襲の手術を受けられる医療機関に魅力を感じられるでしょう。健全経営のもとで実現される設備投資（da Vinci、ハイブリッド手術室、強度変調放射線治療など）が有能な医療人を呼び込み、さらに患者さんに選ばれる病院へと成長することに繋がります。このような良い循環を維持することが九州医療センターのSDGsの一丁目一番地と考えています。

17

パートナーシップで目標を達成しよう



第17項「パートナーシップで目標を達成しよう」というゴールは、地域医療連携の強化と人材交流に落とし込むことができます。今年も九州医療センター地域医療連携だより2023をお届けしていますが、約880の連携医療機関のみならず顔の見える信頼関係を維持しながら地域に暮らす人びとの健康を守りたいと思います。また、国立病院機構内外のやる気に満ちた医療人が互いに交流し合うことで、医療界全体の持続的なレベルアップが加速するものと期待されます。

8

働きがいも経済成長も



第8項「働きがいも経済成長も」というゴールでは、働き方改革への取り組みと人材育成・キャリアアップが重要となります。適切なワークライフバランスを保って働きがいのある職場環境を整えるために、タスクシェア・タスクシフトを進めながら超過勤務の削減に努めなければなりません。また、ライフイベントを迎える女性や障害者にやさしい多様な勤務環境を準備することにも積極的に取り組まねばなりません。初期研修医や専攻医を含む若い医療人には学ぶべきことが山ほどあります。労働と自己研鑽の考え方を明確にして、働き方改革との整合性を保持しつつ充実した学習環境を提供することは九州医療センターに課せられた責務と考えています。皆さんと一緒にひとつひとつ取り組んで行きたいと思っています。

就任の挨拶



就任のご挨拶

副院長 中島 寅彦

本年4月より副院長を拝命しました。耳鼻咽喉科頭頸部外科を専門としております。統括診療部長からの異動で、地域連携部長は継続して担当をさせていただきます。コロナ禍の中ではありましたが、当院は福岡・糸島医療圏の基幹病院として、救命救急医療の継続と各診療科における高度医療の提供を継続することができ、国立病院機構140病院の中でもトップクラスの患者数や診療業績を維持しています。今年度は救急救命センターのスタッフの増員による救急医療体制の強化や、放射線治療

装置(リニアック)をより高精度治療を可能とする機種へ入れ替えることによる、より一層のがん診療の充実が期待されます。また広報活動においてはLINEやYouTubeなどのSNSの活用を助け、地域の医療機関の先生方への情報発信/交換を進めてゆきたいと考えております。

当院の強みはスタッフの充実と全診療科が大学病院にも劣らない高度な医療を提供できる「総合力」だと思います。強みを最大限に活かして、地域の皆様に求められる頼られる病院を目指してゆきます。連携施設の先生方とも直接お会いできる機会もまた増えてくると思います。どうぞよろしくお願いいたします。



就任のご挨拶

統括診療部長 甲斐 哲也

この度、統括診療部長を拝命しました麻酔科医の甲斐哲也です。通算23年以上勤務した九大病院から当院に赴任して早くも9年が経過しました。これまでは麻酔診療と手術室の管理運営が仕事の大部分でしたが、病院全体の診療を統括する役割となりましたので、今後は内科系の先生方はもとより、多職種の方々と交流を深め、当院全体の診療の質向上に尽力していきたいと考えております。また、当院には前病院長の森田先生が主導されてきた再開発

構想があり、私は2年前から新病院整備担当部長も務めております。森田先生が退任直前に、国立病院機構本部から新病院計画を認めてもらうことができ、本年度から関係機関との折衝が始まりました。新興感染症や災害などの有事にも機能的に対応できる、地域に役立つ新病院を目指しています。時間は掛かるとは思いますが、在任中に何とか道筋を付けたいと思っています。新病院の実現のためにも、病院の健全な経営が重要です。病院内外の多くの皆様のご意見を伺いながら、よりよい病院運営に努める所存ですのでどうぞよろしくお願いいたします。



就任のご挨拶

看護部長 西山 ゆかり

4月1日付で長崎医療センターより配置換で参りました看護部長の西山ゆかりと申します。どうぞよろしくお願いいたします。ゆかりという名前は、人と人との結びつき、つながりを大事にできるようにとつけてもらったものです。九州医療センターで勤務できること、関係する皆様とご縁を大切に、基本理念である、「病む人に寄り添い、安全かつ最適な医療を提供します」を心に刻み、何事にも真摯に取り組んでいく所存です。

患者さんご家族に寄り添うためにも、職員間の相互理解を深め、お互いをリスペクトし、職務満足を高め、人材育成に努めてまいります。当院主催の特定行為研修も2年目を迎えました。今年度は6名が受講していますが、そのうちの半数は、地域の医療機関から受け入れています。これから、医療を取り巻く情勢は複雑さを増し、現場のニーズは益々高まっていくと思います。高度急性期病院としての使命を果たし、患者さんやご家族、地域の皆様に信頼されるよう、看護の専門性を発揮し、ここを選んで良かったと思っていただけるよう、職員一丸となって、明るく、楽しく、前向きに、取り組んでまいります。ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



循環器内科科長 井上 修二郎



このたび循環器内科科長を拝命しました井上修二郎と申します。九州大学病院で研鑽を積み、前任地は麻生飯塚病院で筑豊地域の循環器診療に携わりました。

筑豊地域唯一の三次救急病院で救急・重症疾患を診る機会に恵まれ、また高齢化が進む地域における急性期病院として、周辺医療機関との診療連携の必要性について実感してきました。当院も三次救急病院として救命救急および高度急性期医療に力を入れていく方針であり、当科もよりよい循環器救急医療が出来るよう尽力し病院力向上の一担い手に

なればと考えております。下記の事項について達成度を検証しつつ前進していきたいと思っております。

1) 循環器救急、循環器集中治療の質向上、2) 冠動脈・不整脈治療の質を維持、3) 心不全チーム医療の推進、4) 周辺医療機関との連携強化、5) 若手医師の教育、6) 臨床研究推進

心臓外科と力を合わせてこの病院で診てもらって良かったと患者さんに思ってもらえるような循環器センターであり、院内外から信頼される診療科を目標とし、数年後にあるべき姿を考えながら精進してまいる所存です。御指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

新任のご挨拶

麻酔科科長 辛島 裕士



麻酔科科長を拝命しました辛島裕士と申します。前任の甲斐哲也先生が統括診療部長として昇任されたため後任として赴任した次第です。私は平成9年に九州大学医学部を卒業し、九州大学麻酔・蘇生学教室に入局、主に九州大学病院で麻酔科医として勤務して参りました。専門は心臓血管麻酔ですが、心臓血管外科手術の麻酔ばかりを担当しているわけではございません。

当院は地域の中核病院として年間5,000件を超える手術(2022年度は5,430件、うち緊急手術702件)を行っております。手術室は患者さんが手術を受ける場です。そして手術では、

執刀医を中心とした主科の医師、麻酔科医、看護師、臨床工学技士、放射線技師、薬剤師など多くの職種がそれぞれ力を発揮することで患者さんは外科侵襲を乗り越えます。その中で麻酔科医は、患者さんを外科侵襲から守り、安心して手術を受けられるよう日々の管理を担当しております。

患者さんとご家族に「九州医療センターで手術を受けて本当に良かった」と思ってもらえ、「ここの麻酔科、手術室に任せておけば大丈夫」と院内からはもとより、他院からも信頼される質の高いチームを築いていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

就任のご挨拶

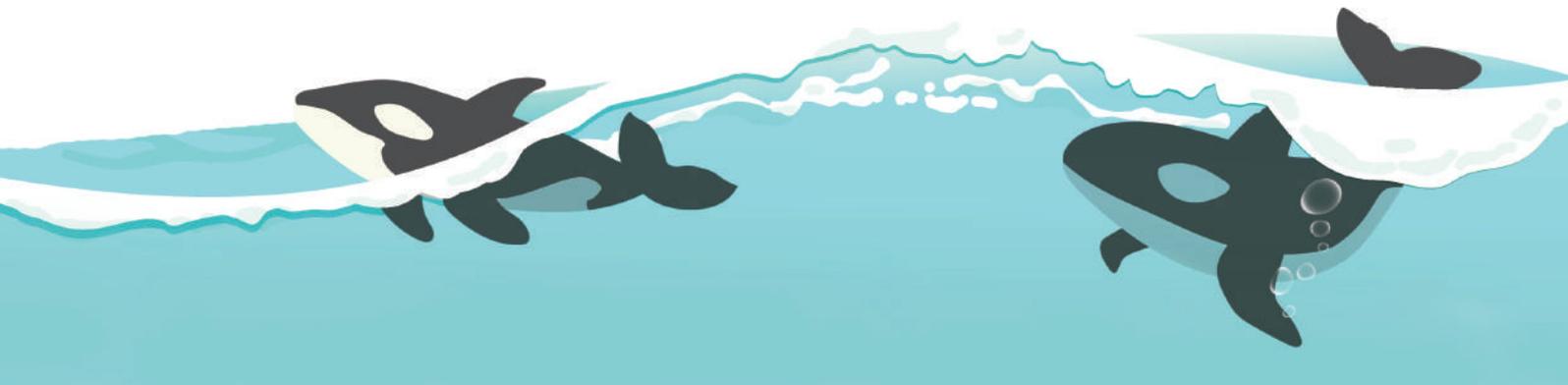
泌尿器科科長 吉川 正博



本年4月1日付けで、泌尿器科科長に昇任いたしました吉川正博です。2007年に当院に着任し、歴代科長の井口厚司先生、坂本直孝先生の指導の下、勤務してまいりました。30年近く泌尿器科医をしておりますが、

この10年で、泌尿器科医療の急激な変化を実感しております。特に抗癌薬治療は、分子標的薬治療、ゲノム医療など、これまで以上に副作用の対応など高度な内科知識が必要になっており、当院では腫瘍内科と連携して治療を行っております。また、

患者層の高齢化に伴い、循環器疾患、呼吸器疾患、代謝性疾患など様々な既往症に対して、各科、各部門との連携が欠かせない状況になっており、当院の重要性が増しているものと存じます。さらに、当院だけで治療を完結することが困難となってきており、各医療機関の皆様のご協力が、益々重要となっております。皆様のご協力を仰ぎながら、「とにかく、医療センターへ」と言ってもらえるよう、努力してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



新任のご挨拶

消化器内科医長 国府島 庸之

消化器内科 国府島庸之（こうじまもとゆき）と申します。専門領域は消化器・肝臓で、九州大学大学院医学研究院病態制御内科学（第三内科）より赴任致しました。私自身、研修医1年目の1997-1998年、留学より帰国後の2010-2016年以来3度目の九州医療センター勤務となり、前回赴任時にお世話になりました皆様と再び一緒にお仕事出来て大変嬉しく思います。肝臓は消化器

臓器である一方で全身の代謝中枢かつ免疫機能の一翼も担う生命維持に必須の臓器で、多彩な治療法が発達した現状では多くの先生方と連携させていただく可能性があるかと思いません。肝炎ウイルス検査や肝障害、肝不全などお困りのことがございましたらいつでもお声掛け頂ければと存じます。九州医療センターの診療・臨床研究の“肝”心かなめとして病院の更なる発展に少しでもお役に立てるよう努力して参ります。ご指導・ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い致します。



入職のご挨拶

救命救急センター医長 成田 純任

4月より救命救急センターに入職させていただきました。前任地の粕屋町の福岡青洲会病院にて救急医療を軸足に11年勤務させていただき、このたびご縁をいただき九州医療センターにお世話になることとなりました。

配偶者、きょうだい、子供であったら」という視点で診療にあたるよう常に心掛け、後進にもそのように教育してまいりたいと考えております。

「患者様、その家族に寄り添う」という病院の理念には大変共感させていただいており、「患者様がじぶんの祖父母、親、

これまで福岡地域の病院前救急のメディカルコントロール活動（救命士等による医療行為のクオリティコントロール）にも長年携わっており、前任地ではドクターカーに乗務し事故現場、患者発生現場まで出向いての医療活動も長年行ってまいりました。今後は病院前活動も拡充していくことも目標としたいと考えております。今後も地域の救急医療の維持、質の向上に微力ながら尽力してまいりますので宜しく願い致します。



管理課長 岩崎 吉洋

4月1日付で長崎医療センターより異動して参りました管理課長の岩崎と申します。当院で勤務するのは3度目となりますが、9年前の前回勤務時と大きく変化していることに驚き、早く今の九州医療センターに慣れなくては行けないと、日々走り回っております。今年度、管理課が取り組むべきこととして、電子カルテ更新後に運用開始予定の勤務時間管理システムの導入があります。職員の勤務時間の更なる適正把握と管理のためのシステムを導入し、全職員が出勤・退勤時に専用の機器にカードを

かざし打刻を行っていくものになります。国立病院機構全体としての取組であり多くの病院で、すでに導入が始まっております。当院においてもワーキンググループを立ち上げ、今後、職員への説明等を行って行く予定です。

そのほか、次年度の病院機能評価更新にかかる準備などもあり、職員のみなさんの理解と協力が無くては進めることが出来ないことばかりです。各職場とのコミュニケーションを図りながら、一生懸命頑張りたいと思いますので、よろしくお願い致します。





新任のご挨拶

栄養管理室長 春田 典子

本年4月より別府医療センターから赴任してまいりました。当院への最初の赴任は平成17年の福岡県西方沖地震の際で、幾度の余震を感じながら慌ただしく引越し作業を行ったのを思い出します。赴任直後には大きな余震があり、電カル、エレベーターが停止し、スタッフ全員で手作業での食数把握や多職種一丸となって人海戦術で行った上層階への食事配膳は大きな経験となりました。

した。近年、栄養療法の重要性が認められ、管理栄養士は多くのチーム医療に参画し診療支援の一躍を担うようになりました。栄養管理部門においては、より質の高い栄養管理を実践するために、スタッフとともに研鑽し、栄養管理の基本である患者満足度の高い食事提供と適切な栄養管理で微力ながら診療支援に貢献できますよう頑張りたいと思います。ご指導、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



転入のご挨拶

副看護部長 筒井 三記子

このたび、熊本再春医療センターより異動でまいりました。九州医療センターには、開院時から18年間お世話になりました。九州医療センターという恵まれた環境で、たくさんの方々、諸先生方に愛情たっぷりに育てていただいたおかげで、いまの私があることに心から感謝しています。院内を歩くと懐かしさがこみ上げるとともに、様々な進化を見ることができ、身の引き締まる思い

がしました。来年30周年という節目に異動できた御縁を感じながら、自身に与えられた役割を務めさせていただきます。これまでの恩返しができますように、また「患者に寄り添う」という新たな理念のもとで看護部が高度急性期病院としての使命を果たせるように、精一杯サポートいたします。

皆様どうぞご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



着任のご挨拶

副薬剤部長 藤瀬 陽子

この度、肥前精神医療センターより配置換えで参りました藤瀬陽子と申します。佐賀県出身で、初めての福岡での生活、初めての九州医療センター勤務ということで大変緊張しております。

九州医療センターに対しては「急性期」「先進的」「大規模」といったイメージを持っておりましたので、異動の内示を受けた際には、自分に務まるのかという不安が大きくうろたえ

ました。しかしながら、4月に皆様に温かく迎え入れていただき、大変心強く感じました。これまでたくさんの方に支えていただき今の私があります。その中で、自分一人でできることは限られているけれど、みんなでなら成し遂げられることがあると学びました。これから九州医療センターで、皆様と共に何かを成し遂げることができればと思っております。精一杯務めさせていただきます。ご指導の程何卒よろしくお願いいたします。



新任のご挨拶

副臨床検査技師長 松尾 龍志

4月1日付けで佐賀病院より配置換えで参りました副臨床検査技師長の松尾と申します。今回の異動で九州医療センターは6施設目ですが、病院の規模の大きさ・職員の多さ・来院される患者の多さに、異動初日より驚いております。まず自部署の職員約40名の顔と名前を覚えるのが最初の業務目標と考えています。臨床検査部はISO15189を取得しており、また各部門にスペシャリストのスタッフが多くいます。その中で、自分がどう考えどう動い

ていけば円滑な業務が遂行できるか、試行錯誤しながら毎日充実した生活を送らせて頂いています。

今後、「医師の働き方改革」に伴う「タスクシフト・タスクシェア」等で臨床医の先生方や他部門の方々には、交渉事でも何かとお世話になるかと思いますが、基本対面でお話をしていきたい。円滑な病院診療に貢献していく臨床検査部として取り組んでまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

さわやかナースング



令和5年度 新人看護職員初期研修

臨床教育研修センター 中村 千夏子
教育担当看護師長

職場での看護実践を通して、看護職としての働く基盤を作り、専門職業人としての自覚を育み職場適応を促すという目的のもとOJTを中心とした2週間の初期研修を実施しました。



4月より新人看護師・助産師90名が新しく仲間に加わりました。



Medical Safety

医療安全

Off-JTとOJTを繋ぎ、OJTで
職場に慣れることを目標としました。



病棟研修



技術演習



Infection control

感染管理



病棟研修



病棟研修

新人看護職初期研修を終えて

- 2週間前まで何も分からず不安しかなかったが、少しは病棟に慣れて、今後のイメージをつけることができました。
- 同期と仲を深めると共に、今後の意欲につながりました。
- 少しずつ看護師としてのイメージが湧いて頑張ろうと思いました。
- 2週間、大変なこともたくさんありましたが良い経験がたくさんできました。この初心を忘れずに今後の看護に繋げていきたいです。



近年、超音波内視鏡（以下EUS）は膵胆道領域の診療に必須であり、当科での検査数は年間700件前後となっています。超音波内視鏡下吸引生検法（EUS-FNA）が2010年4月に保険収載されて以降、膵腫瘍や消化管粘膜下腫瘍などの消化器領域のみならず、縦隔・腹腔内の腫瘍やリンパ節に対する組織診がEUSを用いて日常的に行われる様になり、更にはEUS-FNAの技術をドレナージへ応用して、2012年には超音波内視鏡下瘻孔形成術として保険収載されました。当科でも胆道および膵嚢胞ドレナージ以外にも、良悪性を問わず以下のような治療を行なっています。

1) 胆道ドレナージ（EUS-BD）

悪性胆管狭窄による閉塞性黄疸に対してはERCPによる胆道ドレナージを行います。十二指腸狭窄合併例や術後消化管再建症例（胃全摘や胆管空腸吻合）ではERCPが不可能な場合もあり、以前は経皮経肝的胆道ドレナージ（PTCD）で対応していました。PTCDは外瘻管理のため入院期間延長やQOL低下を招き、自己抜去のリスクがあるなどの問題点がありました。近年ではPTCDに代わり、EUSを用いた胆道ドレナージ（EUS-BD）が普及しつつあります。その方法は、EUSを用いて消化管（胃や十二指腸）から肝内胆管あるいは総胆管を穿刺し、胆管造影後にガイドワイヤを誘導してドレナージチューブを経消化的に留置します（図1）。本方法は一次的に内瘻化が可能であり、

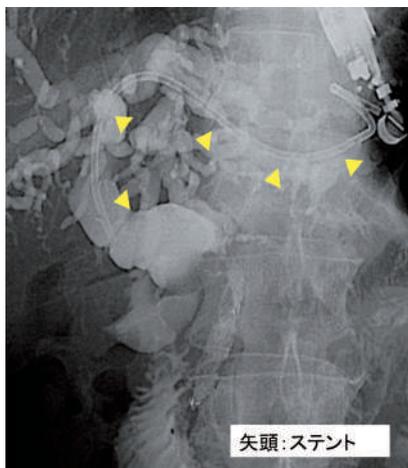


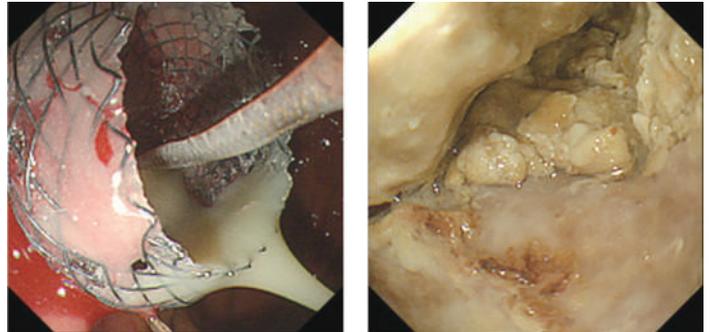
図1 EUS-BD

上述したPTCDの問題点がないことが特徴です。ただし、高難度の内視鏡処置であり、偶発症（胆汁性腹膜炎やステント迷入など）も重篤化しやすいため、適応は慎重に判断する必要があります。当科では2015年から118件のEUS-BDを行い、処置成功率は90%と他のhigh volume centerと比較しても遜色はありません。

2) 膵仮性嚢胞・被包化壊死（WON）・術後膵液漏

急性膵炎後の仮性嚢胞やWON、術後膵液漏などに対してはLAMS（Lumen apposing metal stent）と総称される特殊

な金属ステントを用いた治療を行います（図2）。更には感染性WONの場合には同ステントを介した内視鏡的ネクロセクトミーによる治療を行います。



LAMSによる治療

WON内の壊死物質

図2 EUS下膵嚢胞ドレナージ

3) 腹腔内膿瘍

上腹部のみならず骨盤内膿瘍に対してもEUSでのアプローチが可能です。当科では2017年以降、合計20件の腹腔内膿瘍に対してEUS下治療を行い、手技成功率は100%、臨床的改善率は90%でした。

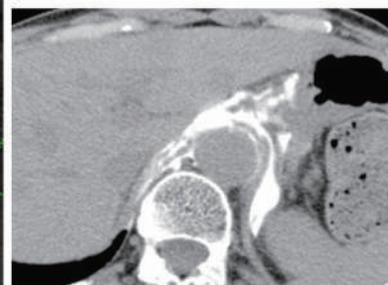
4) 急性胆嚢炎に対する胆嚢ドレナージ（EUS-GBD : gall-bladder drainage）

急性胆嚢炎に対する治療は外科的胆嚢摘出術が基本ですが、高齢や全身状態不良で耐術不可能な場合もあります。従来は外瘻である経皮経肝的胆嚢ドレナージ（PTGBD）で対応していましたが、現在はEUSを用いて胃あるいは十二指腸から胆嚢にドレナージチューブを留置して一次的に内瘻化を行ないます。2015年以降、当科では37件のEUS-GBDを行いました。

5) EUS下神経ブロック

オピオイドで疼痛管理が困難な難治性癌性内臓痛に対して、EUSを用いて腹腔動脈周囲に存在する腹腔神経叢や腹腔神経節にエタノールを注入する神経ブロックを行なっています（図3）。

以上の様にEUSは診断から治療へと急速に発展しており、将来的にはLAMSを用いた消化管吻合術など更なる発展が見込まれる領域です。今後も安全面には細心の注意を払いながら、最新の治療を取り入れた医療を提供していきます。



腹腔動脈根部へ針を穿刺

エタノールの分布をCTで確認

図3 EUS下神経ブロック



ヒポクラテスのカフェ

“食物連鎖：ザボンの話”

NHO 都城医療センター 吉住 秀之

私の見た中で朱欒の巨樹は福岡の公会堂の庭にあるのがまず日本一と勝手にいってもいいだろう。八方から支え木で支えた老樹の枝は何百という朱欒をのりいり地と低くたれていた。(杉田久女『朱欒の花の咲く頃』)

ザボンは文旦ともいわれますが、標準和名はザボンです。ある説によれば広東からの貿易船が難破した際に救助のお礼に船長の謝文旦から贈られたことが名前の由来だそうです。原産地は東南アジアなどで日本にとっては南国由来の果物です。柑橘類の中でも実が大きく、中には2kgにもなるものもあります。

ザボンはポルトガル語ではザンボア(zanboa)といいますが、北原白秋(1885-1942)は、この名前を自分が発刊した文芸雑誌につけました。水郷柳川にある白秋の生家の庭にはザボンの木が植わっていて、彼はその思い出を綴っています。「朱欒が熟るころから酒作りがはじまる。私は廢れた南方の町の、あの匂い高い、さうして何となく新しい味ひのあるこの朱欒の樹のかげで生まれて、酒の薫と暖かい日光の中で、自分の心を温めながら穏やかに生いたつて行つた」。1928年の夏20年ぶりに帰郷した際に、白秋は「照る砂に雷管のごと花落す朱欒一木が老いてお庭に」(歌集『夢殿』所収)と詠んでいます。白秋が詠っているように「朱欒の花は雷管のような形をして」いる

白い花です。彼は若い頃詩人で医師の木下奎太郎らと交遊し、南蛮趣味に目覚めたエピソードがあるので、南国由来の果物であるザボンにひとときわ愛着を覚えたのかもかもしれません。ザボンは皮が厚く、果汁は少なめで酸味が強いので、生食よりは砂糖漬けにして食べることもあり、長崎ではざぼん漬という菓子が有名です。

白秋は52歳の時に糖尿病網膜症からの眼底出血で失明寸前となります(本人は「薄明微茫の中に居る」と述べています)。糖尿病性腎臓病も併発し、57歳の若さで亡くなります。当時のわが国の糖尿病治療はというと、1934年にウシヤブタからのインスリン抽出に成功し、国内初のインスリン製剤が登場しましたが、実臨床の需要を賄うまでには至らず、第二次世界大戦に突入すると輸入制限から供給が逼迫し、マグロから抽出したインスリンが市場に出回っていました。マグロの水揚げ量の多い静岡県清水市に設立された清水製薬(戦後はソリタを販売し、「輸液の清水」として有名でした)は、1941年から武田薬品工業の販売網を通してインスリンを出荷していました(しかし4年後に工場は空襲により全焼してしまいます)。こうした状況は白秋の糖尿病治療にも少なからず影響を与えたのではなかったかと心配になります。戦争という愚行が人びとの健康にも多大な悪影響を及ぼすことに義憤を感じる一方で、白秋がザボンの花を愛するだけでなく、ざぼん漬をこっそり食べていなかったのかも気になります。



九州ところどころ



【日奈久温泉】

ひなびた温泉街です。温泉神社にお参りして温泉に浸り、ビールを片手に名物のちくわサラダを食べるのがオススメです。

温泉神社にも、おみくじをたくさん結ばれたくまモンがいました!



【くまモンポート八代】

国際クルーズ船の受入れ拠点として世界最大級(22万トン級)のクルーズ船の受入れを想定し、国、熊本県、ロイヤルカリビアン社の官民連携により整備され、2020年3月にできたそうです。

ターミナルの周りには、くまモンをテーマとした公園が併設されています。

全長約6mのビッグくまモンをはじめ、くまモン合唱隊や十二支くまモンなど全84体のくまモンがいます。5/5に訪れたため、こいのぼりや折り紙かぶとをかぶったくまモンがお出迎えしてくれました。

くまモン好きの方には是非! オススメです!!

ペンネーム：三女



地域医療 連携 だより

地域に根ざし、 地域に必要とされる クリニックを目指して

福岡県福岡市中央区舞鶴3-9-39 福岡舞鶴スクエア1F
医療法人社団ゆみの わかばハートクリニック
院長 武居 講

わかばハートクリニック院長の武居講と申します。私たちは2022年6月に福岡市中央区舞鶴に開院し、「地域に根ざし、地域に必要とされるクリニック」を目指して日々診療を行っています。訪問診療のみでのスタートでしたが、開院間もなく押し寄せた新型コロナウイルス感染の第7波では、地域のニーズを受けスタッフ全員で試行錯誤して発熱外来を行いました。急患センターや病院の発熱外来が発熱患者さんで溢れかえる中、少しでも皆様のためにとスタッフの熱意に背中を押され休日にも診療を行ったことは良い思い出です。

私たちは通院が難しい患者さんを対象に訪問診療を行っています。以前は福岡市近郊の病院で循環器内科医として勤務していましたが、病院で治療を行っても再入院を繰り返してしまう方々、入院に伴い体力が低下し自宅に帰れなくなってしまう方々を目にし、地域で患者さんの療養を支える体制の必要性を痛感し訪問診療の道へ進むことを決心しました。東京のゆみのハートクリニックで3年間、



重症心不全の在宅診療など多くの経験を積ませていただき福岡に戻ってまいりました。

これまで医師一人診療を行ってききましたが、4月より常勤医師1名が加わりました。今後その他のスタッフも増員し、よりきめ細やかに対応できるようにしていきたいと考えています。また、地域の皆様のニーズに応えるため訪問診療だけではなく外来診療の拡充も図っていきます。昨年度まで九州医療センターで循環器センター統括運営部長を務められた肥後太基先生もご入職いただき土曜日の外来診療を担っていただいています。

地域で生活される患者さんは多くの不安を抱えて療養生活を送っていらっしゃると思います。患者さんが安心して在宅療養を送るためには、地域の連携だけではなく病院とのシームレスな連携が重要です。患者さんが安心して生活を送れる地域づくりをしていきたいと思っておりますので、九州医療センターの皆様にもお力添えをいただきたく存じます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。最後になりましたが、九州医療センターの益々の発展を心より祈念しております。

九州医療センター 食事改善プロジェクト始動

栄養管理室長 春田 典子

～もっともっと美味しくな～れ！病院食！！～ Part 2

栄養管理室では「ホテル日航福岡」中橋名誉総料理長（以下シェフ）のご指導の下、昨年12月から食事改善プロジェクトを始動しています。ご指導にあたり、当院独自で行っているPXサーベイ（患者経験価値調査）にて食事に対するご意見を栄養管理室スタッフとシェフとで問題点を共有し洗い出しました。

患者さんは病期、治療など個々で異なりますが、どのような状況であっても、患者さん本人は、少しでも食べようと必死なのです。食事が摂れない日が続くと、とたんに栄養状態が悪くなります。食欲のない患者さんは、まず配膳された食事をみて適量であるか、彩りはどうか、嗜好にかなっているか等一目で

判断することが多く、食欲の促す条件として、材料の切り方・盛り付け・量や色彩器・適温などの調和がとれていることが挙げられます。

また、関連スタッフの明るい笑顔と温かい言葉での支援により、食事にアミニティーがプラスされ、食欲を増す大きな力になると実感しています。このようなことを踏まえて、当院の患者在院日数はおよそ12日であることから、2週間に1回行事食の提供を行っています。現在、月2回シェフの訪問時にご教授いただきながら昨年度の行事食をアレンジし、通常の食事とは異なった食材の使い方、調理・盛り付けの工夫など見栄えのよいものとなっています。

体調によって味覚は変化し、同じ食べ物でもその工夫によって食べやすさが変わります。口からものを摂れることは、喜びを感じるものとよく耳にします。

入院中の患者さんにとって食事は大きなウェイト占めており、同時に楽しみでもあります。今後も喜んでいただける食事提供に努めてまいります。

そして、これまでご尽力をいただいた井上栄養管理室長がこのプロジェクトにける思いを継承していく所存です。



人事の動き

令和5年4月2日～令和5年7月1日

医療職 (一)

就任	肝胆膵外科医師 武石 一樹	退任	乳腺外科医長 中川 志乃
就任		退任	肝胆膵臓外科医師 釘山 統太



高精度放射線治療装置

ハルシオン

Halcyon 導入

放射線科科長
大賀 才路

近年、放射線治療の分野では照射技術の進歩により精度の高い治療が可能となり、実臨床において高精度放射線治療が実施される機会が増えています。九州医療センターでもこの動向に対応すべく高精度放射線治療が実施可能なVarian社製Halcyon（ハルシオン）をこの度導入し、2023年6月1日より稼働しています。Halcyonは定位放射線治療や強度変調放射線治療といった高精度放射線治療を得意とし、障害の少ないより効果的な治療が実施可能です。また、この装置はOリング型

リニアックであり、照射口が高速回転しながら放射線を照射することが可能なため、他の放射線治療装置に比較して治療時間が短縮されます。肺や肝臓といった病変の呼吸性移動が問題となる場合は病変の呼吸性移動をモニタリングする装置と組み合わせることで照射範囲を最小限に狭め、正常臓器の障害リスクを低減した治療が可能です。この装置は、従来からの照射口を固定した1～4方向からの照射なども実施できるため、使用目的は根治から緩和照射まで広範囲にわたっています。

九州医療センターは放射線治療装置：Halcyonを使用し、患者さんにとってより最適な放射線治療を提供することで地域医療に貢献してゆきます。



編集後記

糸島の「白糸の滝」は羽金山の中腹に位置し、24mの落差があります。

近くに寄ると、細かな水しぶきを浴びる事ができます。また、ヤマメ釣り体験や、そうめん流しも楽しめます。ちょっと寄ってみるといいかも。

副編集委員長 占部 和敬

夏が始まりました。医療センターの夏の思い出と言えば、なんといっても大濠花火大会。4人部屋の明かりを消して、ほかのお部屋の患者さんまで集まって、みんなでわいわい眺めた花火。特にエンディングの巨大しだれの連発にはみんなで歓声をあげました。もう中止になって5年になるんですね。

今年は9月に愛宕浜で花火大会があるそうです。病棟からは見えるでしょうか。

編集委員長 高見 裕子

医事統計 患者数・診療点数の推移

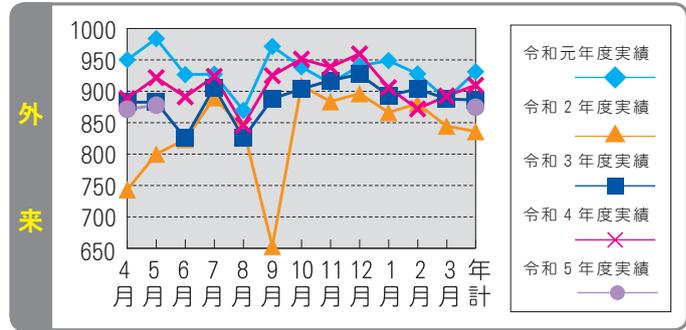
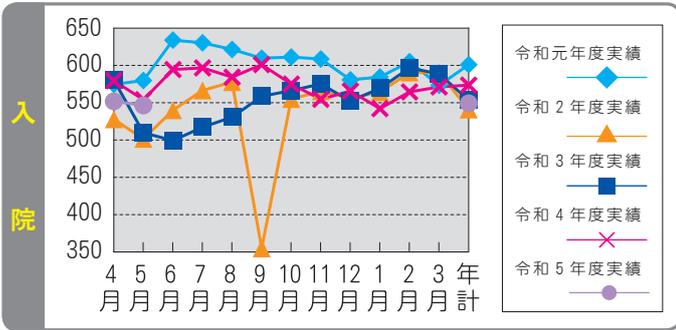
■令和5年度は、月平均在院患者数605人と、病床利用率86%達成に向けて取組んでいきましょう！（令和5年5月現在の暫定値）
 外来新患者数は、今年度5月までの実績で3,871名と前年同月までと比べ177件の減となっています。今年度も、新紹介患者の確保と逆紹介の推進が重要となります。1日平均外来患者数は、5月までの実績で874.7名と昨年同月までの実績（904.7名）と比較して30.0名の減となっております。
 1日平均入院患者数は今年度5月までの実績で549.2名と昨年同月までの実績（566.6名）と比較して17.4名の減となっております。新入院患者数は5月までの実績で昨年度同月までと比較すると152名の増となっております。平均在院日数につきましては、昨年度と比較して1.1日減って11.5日となっております。
 入院1人1日当り診療点数は、今年度5月までの実績で8,384.1点と昨年の実績と比較すると564.6点の増となっております。外来1人1日当り診療点数については、今年度5月までの実績で3,257.4点と昨年同月までの実績と比較して11.4点の増となっております。
 紹介割合は、5月までの実績で96.1%となっており高い割合を維持しています。

1日平均入院患者数（在院）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和元年度実績	574.6	579.8	633.9	630.3	621.4	609.7	611.2	608.6	580.7	584.4	605.0	573.3	601.0
令和2年度実績	527.8	501.6	540.0	566.5	577.7	354.8	555.0	565.3	556.5	564.2	590.5	590.4	540.9
令和3年度実績	580.4	509.8	499.3	517.2	530.7	558.6	566.3	575.2	552.1	569.3	596.6	588.7	553.3
令和4年度実績	579.6	554.0	594.5	596.7	584.3	601.1	575.0	554.6	565.7	542.1	564.5	571.2	573.6
令和5年度実績	551.9	546.4											549.2

1日平均外来患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和元年度実績	950.2	983.9	926.6	927.3	869.6	971.4	938.9	912.7	940.5	948.9	927.7	887.7	931.2
令和2年度実績	743.3	800.1	823.4	889.9	840.8	653.0	909.2	883.6	896.4	866.4	880.2	844.7	836.0
令和3年度実績	882.7	882.6	825.3	906.0	825.7	888.1	903.8	917.2	927.0	893.2	903.9	887.8	886.1
令和4年度実績	888.5	921.7	891.1	924.0	846.1	924.9	951.3	938.6	959.6	905.8	871.9	892.6	909.7
令和5年度実績	871.4	877.9											874.7

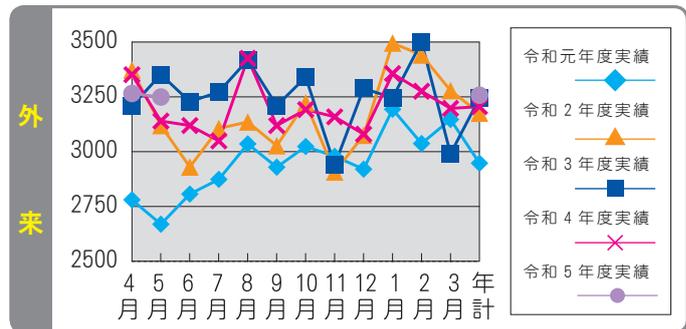
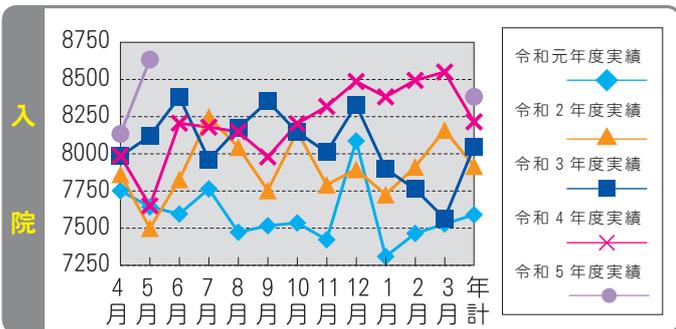


入院1人1日当り診療点数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和元年度実績	7,752.0	7,642.8	7,595.5	7,764.1	7,472.8	7,516.6	7,535.3	7,422.6	8,086.5	7,309.2	7,464.6	7,528.1	7,590.5
令和2年度実績	7,862.5	7,500.1	7,827.7	8,247.6	8,044.8	7,753.7	8,149.1	7,791.3	7,895.8	7,725.7	7,912.4	8,159.6	7,917.4
令和3年度実績	7,983.7	8,119.7	8,381.9	7,961.4	8,172.2	8,352.7	8,146.2	8,010.4	8,329.4	7,899.1	7,762.5	7,565.7	8,050.3
令和4年度実績	7,986.1	7,650.9	8,205.6	8,179.4	8,148.4	7,979.0	8,202.6	8,318.7	8,486.7	8,383.0	8,494.2	8,550.1	8,215.4
令和5年度実績	8,134.0	8,634.1											8,384.1

外来1人1日当り診療点数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和元年度実績	2,780.4	2,669.1	2,806.7	2,873.5	3,035.4	2,929.2	3,023.6	2,978.7	2,920.1	3,193.5	3,037.1	3,146.7	2,947.4
令和2年度実績	3,372.3	3,119.3	2,930.1	3,105.9	3,135.4	3,027.2	3,222.5	2,907.3	3,074.9	3,495.5	3,441.0	3,278.8	3,175.6
令和3年度実績	3,208.4	3,351.9	3,227.9	3,272.2	3,418.7	3,209.9	3,340.1	2,938.5	3,288.3	3,245.5	3,500.6	2,990.2	3,243.9
令和4年度実績	3,351.1	3,139.6	3,119.2	3,049.0	3,425.7	3,118.9	3,191.8	3,158.9	3,079.7	3,356.1	3,275.7	3,197.4	3,205.3
令和5年度実績	3,265.5	3,249.2											3,257.4



紹介割合推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和元年度実績	98.6	98.4	98.7	95.6	97.8	96.7	97.6	98.3	100.3	98.2	98.6	94.1	97.8
令和2年度実績	77.7	98.1	96.2	88.4	89.0	90.2	98.4	93.8	97.0	76.4	90.4	97.8	91.5
令和3年度実績	93.9	87.6	96.2	95.8	92.2	92.1	99.3	100.3	101.1	91.0	76.6	94.0	93.6
令和4年度実績	94.9	95.7	97.2	84.3	81.9	94.4	96.1	94.9	87.5	90.0	98.6	97.1	92.7
令和5年度実績	96.4	95.7											96.1

